

第3章 地域別景観の形成

「第3章 地域別景観の形成」は、市町村等に、市町村間で調和のとれた広域的な観点に配慮した景観形成を進めてもらうために、前章の内容を、視点を変えて地域的な広がりの中で景観特性が捉えられるように整理します。具体的には、県土を「地形の変化」、「歴史と文化」、「資源のまとめり」の3つの視点により地域分割し、第2章で抽出した広域景観資源を地域ごとに図示します。また各地域の景観特性を示すとともに、地域毎の望ましい景観形成の方向性を、市町村等が主体となって進める景観形成の手がかりとして示します。

なお、第3章で示す地域別の広域景観資源等の分布図には、地域の景観の特性をより理解しやすくするため、第2章で抽出した広域景観資源のほかに、抽出の過程であげられた広域的な景観資源も併せて表示（凡例を小さくして表示）します。

1. 地域区分の考え方

愛知の景観は、「自然」「歴史」「生活」「産業」に関わる、魅力的な景観資源が集まり、相互に関連しあって成り立っています。

こうした景観も県土全体から少し視野を狭めて地域に着目すると、景観の素地となっている地形や、地域固有の歴史や文化、またその上に成立している各景観資源の分布状況により、地域ごとの多様な景観特性が見えてきます。

ここでは、景観形成の主体が愛知の骨格的な景観の形成に配慮し、また地域単位で同じ目標に向かった取組みを、関連し合う主体が協働しながら進められるよう、以下に示す視点から県土を地域区分し、各地域の景観形成の方向性を示します。

なお、地域区分の境界は、景観は様々な要素が混じり合って形成されていること、また、複合的な視点から地域区分を行っていることから、明確な区分けをせず、おおよその範囲で示し、ある程度の重複を前提としたものとします。

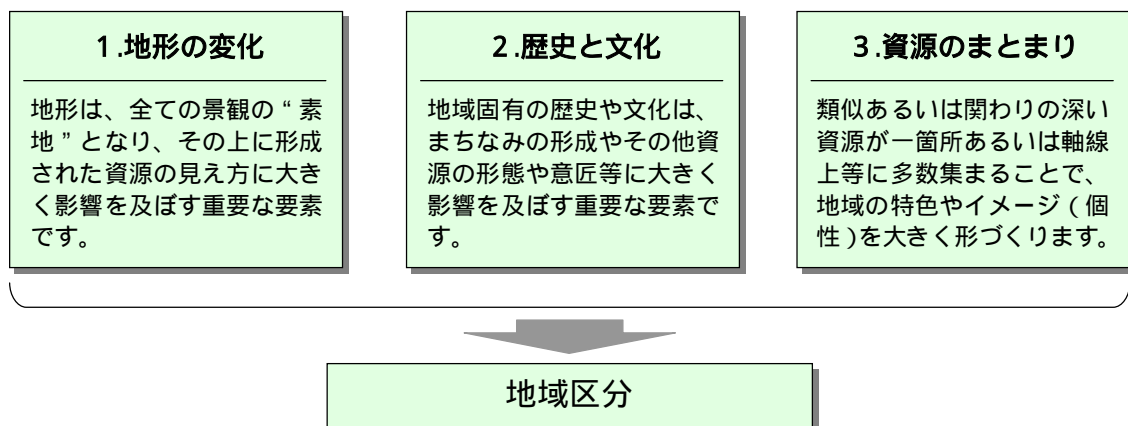
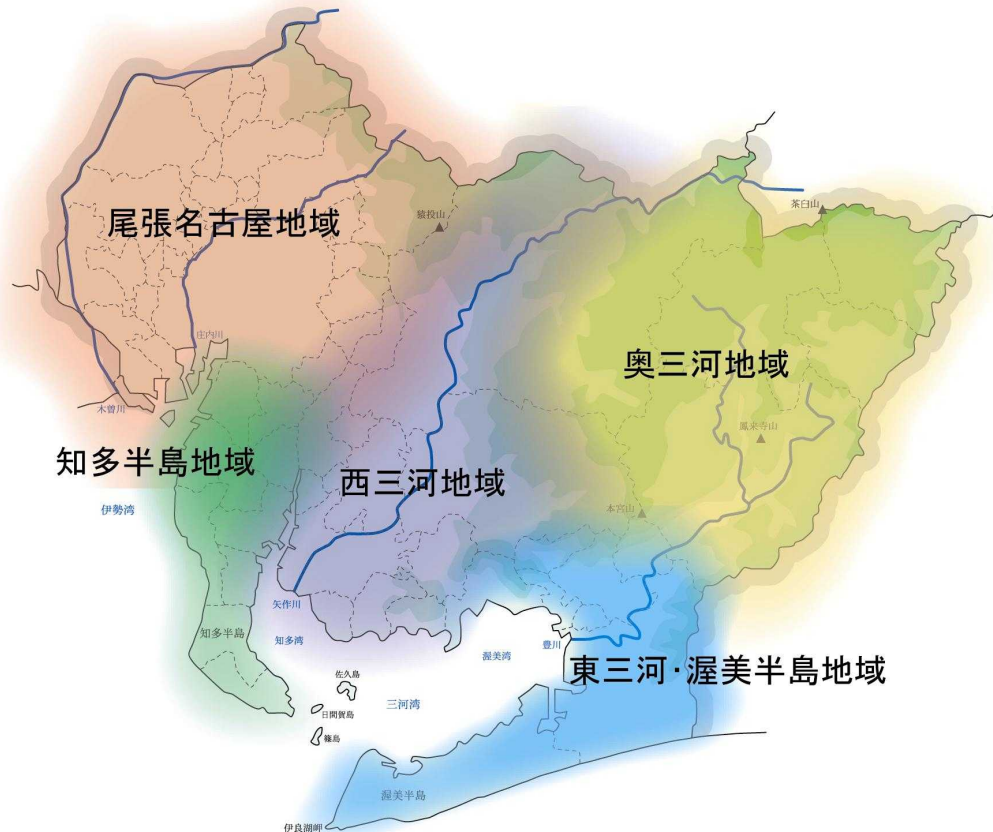


表 地域区分

	1.地形の変化	2.歴史と文化	3.資源のまとめり
1.尾張名古屋地域	<ul style="list-style-type: none"> 木曾川の扇状地及び沖積地により構成された濃尾平野 尾張丘陵の一部を東に含む 	<ul style="list-style-type: none"> 尾張国の中心的な地域 織田信長、豊臣秀吉の武将を輩出した地 桶狭間の戦等、時代の転機の主要な舞台 現在、愛知の政治経済の中心地 	<ul style="list-style-type: none"> 濃尾平野の広がりのある地形を生かした田園地帯 郊外に大都市名古屋のベッドタウンが形成 名古屋を中心に多数の道路や鉄道が集中 中高層の商業業務の建物
2.西三河地域	<ul style="list-style-type: none"> 矢作川の流域に形成された岡崎平野 三河山地との境界が東部の境を形成 西部の境界は境川 	<ul style="list-style-type: none"> 三河国の中心的な地域 徳川家康を輩出した地 現在は岡崎市、豊田市の二つの中核市を中心に自動車産業等が発展 	<ul style="list-style-type: none"> 先端技術を有した機械や自動車産業が集中 各種の地場産業が発展 明治用水の恩恵を受けた田園地帯
3.奥三河地域	<ul style="list-style-type: none"> 豊川等の源流部となっている標高 1000m前後の山々で形成された三河山地等 	<ul style="list-style-type: none"> 田峯田楽や花祭り等、地域固有の伝統芸能の宝庫 足助や設楽等には街道が街道が通り、尾張、三河と伊那地方を繋ぐ要衝 	<ul style="list-style-type: none"> スギやヒノキの人工林 標高 1000m前後山々 規模の大きな湖や池が多数分布 国定や県立の多数の自然公園
4.知多半島地域	<ul style="list-style-type: none"> 尾張丘陵から里山が伸びる、緩やかな起伏で構成された知多半島 	<ul style="list-style-type: none"> 古くから醸造業や窯業が盛んな地域 山車祭りに代表される地域固有の伝統行事が多数散在 	<ul style="list-style-type: none"> 多数の農業用ため池の分布 醸造業や窯業等の愛知を代表する地場産業の集中
5.東三河・渥美半島地域	<ul style="list-style-type: none"> 三河湾と太平洋に面する渥美半島 豊川を中心に形成された、三河湾(三河港)を取り巻く豊橋平野 	<ul style="list-style-type: none"> 旧東海道の宿場町を多数抱え、豊橋市や豊川市を中心に、古くから交通の要衝 渥美半島には古窯址群が残る 	<ul style="list-style-type: none"> 太平洋に面した海岸や岬 三河港を中心とした臨海工業地域 三河湾の眺望を生かした観光レジャー施設

図 地域の範囲



2.地域別景観の形成

(1)尾張名古屋地域

地域の広域的な景観特性

【自然景観】

起伏が少なく広大な面積を有する濃尾平野が、産業の発展を支えています。

木曾川は、河川敷等の広がりや連続性から、市町村をまたぐ景観資源となっています。

御嶽山、伊吹山、鈴鹿、養老等の美しい山並みを県外に望むことができます。

地域北部から東部の外縁、知多半島地域にかけて、多様な生物の生息環境となる丘陵地が繋がっており、さらに西部を流れる木曾川の河川空間や周辺の農地と一体なって、この地域の周囲を取り巻くグリーンベルトを形成しています。



【歴史景観】

本地域は、織田信長や豊臣秀吉をはじめとする多数の武将を排出した地であり、桶狭間の戦いや小牧長久手の戦い等、時代の転機における主要な舞台であることから、各地に石碑や城跡、また神社・仏閣、旧街道等が見られます。

古くから政治経済の中心であったことを示す名古屋城や犬山城に代表される歴史資源が多数残り、本県を代表する景観として全国に知られ、県民に愛されています。近代日本を支えた遺産（工場等の建物）が、産業技術記念館やノリタケの森として丁寧に保全・再生され、往時の面影を今に伝え残しています。

【生活景観】

名古屋市郊外では、高蔵寺ニュータウンや桃花台ニュータウンに代表される大規模な住宅地開発が見られます。

戸建持ち家率が東京や大阪と比較して高いことから、周辺市町村では、敷地にゆとりがあり、のびやかな雰囲気のある住宅地が形成されています。

起伏の少ない濃尾平野の特徴を活かした広大な田園が、北西部に広がっています。

【産業景観】

明治以降の繊維業の発展等が、「モノづくり愛知」の礎となっています。

名古屋は、中部地方の中核都市として発展を続け、中心部の栄や名古屋駅前には大規模な商業店舗や事業所の集積した高層ビル等が見られます。

高規格道路や軌道(リニモ)の建設が、地域の成長を物語る景観を形成しています。

郊外を通る主要道路沿道に建設されるロードサイドショップ等の建物や屋外広告

物が、地域の活性化とは裏腹に、地域の個性や魅力を失う要素ともなっています。

景観形成の方向性

本地域において進める景観形成には、次のことに留意して取り組むことが望めます。

都市の活力を感じさせるまちなみを形成する

名古屋市は中部圏の中心都市として、県内産業の活力を背景にさらなる商業集積が進み、近年高層ビルの建設も進められています。また、住宅需要も高く、マンション等規模の大きな住宅建築も多数見られる地域です。その一方で、周辺都市では郊外への住宅や大規模店舗の進出が進み、中心市街地の衰退も生じています。

今後は、新しく建築される建築物に対して、形態・意匠等の景観配慮を行うとともに既存のまちなみに対する更新等を積極的に行い、あわせて都市における緑の保全、創出を進めることにより、都市の活力と潤いを感じられるまちなみを形成していくことが望めます。また、周辺都市における中心市街地活性化に当たっても、景観に配慮しつつ取り組むことが望めます。

尾張の武家文化にまつわる景観を復興する

本地域は、大勢の著名な戦国武将を輩出しており、これに関わる多数の歴史資源を有する地域にも関わらず、景観資源として十分活用されていないのが実情です。

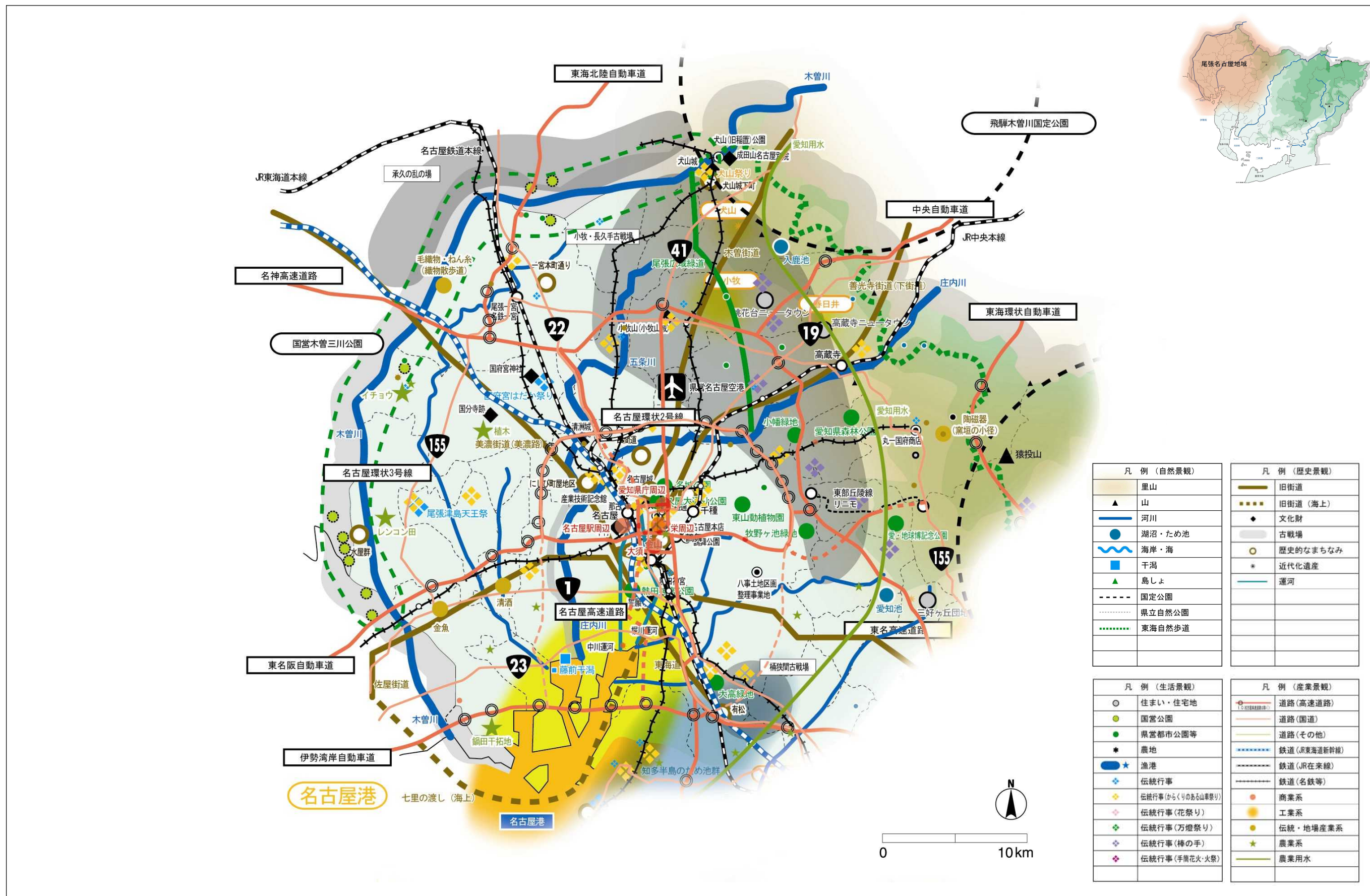
今後は、現在ある歴史資源を大切に保全し、また埋もれかけている資源は発掘して県民等に知らせながら再生することが望めます。また時には、本地域が持つ歴史にふさわしい景観を、物語性を持たせながら形成していくことが望めます。

都市近郊の里山や丘陵を保全する

本地域は、大都市名古屋を中心として都市化が進んだ地域です。しかし、そうした都市の近郊には、多数の里山や丘陵地に見られる豊かな自然景観や、農業の営みによりもたらされる良好な景観が多数見られます。

今後は、都市近郊で見られる、生活に身近な里山や丘陵斜面に残る樹林等を、都市の背景となる貴重な自然景観として位置づけ、生物多様性の保全を実現しながら、大都市を取り巻くグリーンベルトとしての役割にも留意して守り、育てていくことが望めます。

図 広域景観資源等の分布



(2)西三河地域

地域の広域的な景観特性

【自然景観】

矢作川の流域に形成された岡崎平野では、濃尾平野とは異なり、僅かに見られる起伏が、地域の景観に変化を創り出しています。

地域を代表する河川である矢作川は、渓谷美の美しい上流部と、川幅が広くゆったりと流れる中下流部との変化に富んだ景観から構成されています。

地域南部には、佐久島を含めた美しい三河湾の景観が広がっています。

この地域に西端には尾張と三河の境となっている境川があります。



【歴史景観】

本地域は、徳川家康の生誕地として、また天下統一という偉業に踏み出した地域であることから、そのゆかりの歴史資源が各地に多数見られます。

東海道や足助街道等の旧街道が、足助のまちなみや岡崎城を繋いでおり、往時の面影を残しています。また、三河の小京都と呼ばれる西尾等、神社・寺院、古く趣きのある民家等の歴史景観資源が豊富に残る地域も見られます。

【生活景観】

名古屋のベッドタウンとして、また豊田市や岡崎市等の産業を支える生活の場として土地区画整理事業等が行われており、大規模でまとまりのある住宅地景観が見られます。

三河湾に位置する大浜漁港や一色漁港や佐久島等には、海との関わり深い生活景観が見られます。

三河万歳や大提灯祭り等に見られる地域及び愛知を代表する伝統行事が、生活の中に息づく景観として、地域の暮らしに彩りを添えています。

【産業景観】

矢作川（明治用水等）の豊かな水の恵みを活かした大規模な農地が、安城市や刈谷市等の地域に形成され、雄大な景観を呈しています。

高浜市の瓦や岡崎市の味噌等の地場産業が、地域のまちづくりや観光産業の一翼を担い、独特の魅力ある産業景観を創出しています。

衣浦湾周辺の臨海工業地帯に加え、自動車産業を中心とした内陸工業地帯の発展が、県全体の活力を大きく牽引するとともに、「モノづくり愛知」としてのイメージを体現しています。

景観形成の方向性

本地域において進める景観形成には、次のことに留意して取り組むことが望めます。

産業拠点としての活力を感じさせる

本地域は、本県の中核的な産業拠点としての役割を担う地域です。また古くからの地場産業も受け継がれ、個性ある景観が見られます。しかし大規模な工場等では、法規制に基づく緑化は行われているものの、周辺の自然景観や生活景観との調和が不十分なものも見られます。また地場産業に関わる個性的な景観資源は、それらの産業が経済情勢や流通の変化等の中で衰退したことにより、失われつつあるものもあります。

今後、企業等は、社会的責任の一端として美しい地域づくりへの貢献を認識し、工場や倉庫等の大規模建築物の周辺での景観に配慮し、「モノづくり」の拠点としての活力を感じることができる景観形成が望めます。また、これまで地域の発展を支えてきた地場産業に光をあて、地域の魅力を創出する貴重な財産として位置づけるとともに、将来に渡って守り育てることが望めます。

矢作川を中心に広がるのびやかな農地の風景を守り、活かす

本地域は、比較的平坦な地形が多く、奥三河の山並みを背景とした田園景観や矢作川沿いの景観が特徴的な地域です。しかし、周囲の景観への配慮が乏しい建築物や構造物の建設、野立て看板の設置等で、この山並みや矢作川を背景としたのびやかな景観が少しずつ失われつつあります。

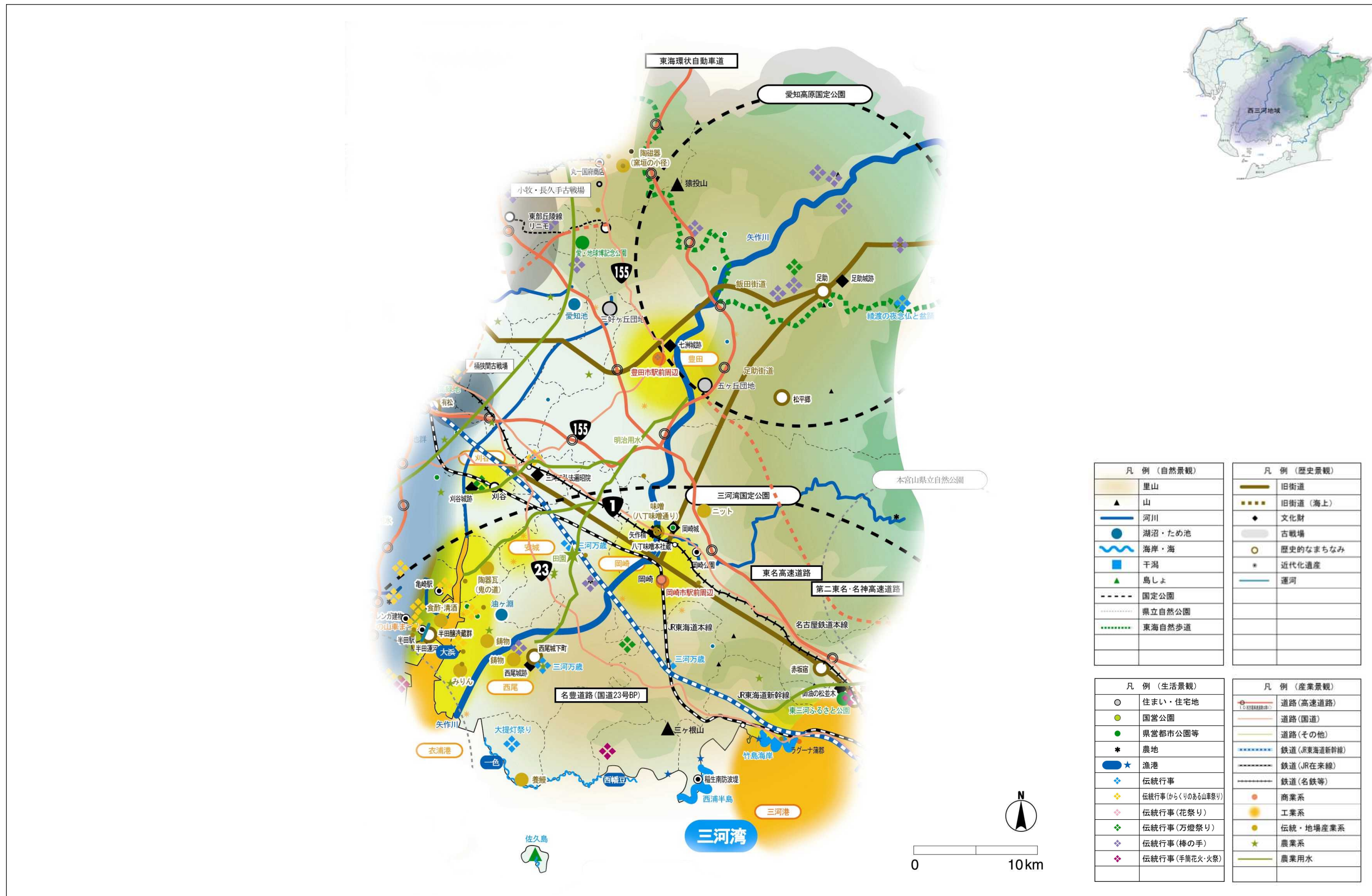
今後は、この美しい農地の景観もまた、地域の魅力の一つであり、景観資源であるとの認識を高めながら、その景観の構成に関わる流域住民の連携と協働を通じて、美しい景観を守っていく取り組みが望めます。

三河の武家文化にまつわる景観を復興する

本地域は、尾張名古屋地域と並び、徳川家康をはじめとする多数の戦国武将を輩出し、これに関わる歴史景観資源も多数有する地域です。特に岡崎を中心とした地域や足助街道沿いのまちなみ等には、歴史的な景観資源が存在するものの、現在のまちなみの中に埋もれ、県民や観光客に認識されていないものも多く見られます。

今後は、尾張名古屋地域と同様に、現在ある歴史景観資源を大切に保全しつつ、埋もれかけている資源を発掘し、県民等に知らせながら再生し、三河の歴史にふさわしい景観を形成していくことが望めます。

図 広域景観資源等の分布



(3) 奥三河地域

地域の広域的な景観特性

【自然景観】

地域の大部分が県内最高峰の茶臼山をはじめとした山地及び高原で占められ、自然に恵まれた奥山としての景観が見られる地域です。

東三河の生活、産業を支える豊川の上流部には、水源林としての役割を担う広葉樹林やスギやヒノキ等の人工林が見られます。これらの樹林は、奥三河の山並みの緑を構成する貴重な景観資源といえます。茶臼山・天狗棚付近や面ノ木峠付近、段戸裏谷等においてはブナ等の原生林が残されています。

佐久間湖や三河湖等の県内では大きな湖が集まっている地域です。これらのほとんどはダム建設に伴って生まれた人造湖ですが、県内では水と親しむことのできる自然資源として、またレクリエーションの場として活用されています。



【歴史景観】

足助街道、伊那街道等の歴史的な景観資源が一部に残り、古くは尾張、三河と伊那地方とを結ぶ交通の要衝であったことを感じさせます。

【生活景観】

花祭りや棚田の風景等、地域に古くから伝承されてきた祭りや農山村の暮らしに見られる風景が、今もなお残されている地域です。

【産業景観】

本地域に広く見られる人工林が、本地域の代表的な産業である林業の景観を形成しています。

自然や癒しへの志向が高まりつつある現在、地形や森林、湖沼等が織りなす自然景観の一部は、観光・レクリエーション資源として、都市的地域で暮らす県民に対して憩いと安らぎの場を与えています。

景観形成の方向性

本地域において進める景観形成には、次のことに留意して取り組むことが望めます。

森林と溪流を中心とした豊かな自然景観を守る

本地域は、豊川(寒狭川)等に沿って広がる人工林や自然林の豊かな自然環境が特色として挙げられます。これらの自然は、西三河地域や東三河・渥美半島地域の背景となるとともに、多様な生物の生息を支える貴重な環境となっています。また、この地域に見られる豊かな自然は、特に新緑や紅葉の時期に多数の観光客を惹きつけ、県民等に憩いと安らぎの場を提供しています。

今後は、これまで守られてきた自然景観をこれからも大切に保全していくために、生態系の保全や回復に配慮しながら、森林地域の適切な管理を行うための取り組みを官民協力のもとで継続していくことが望めます。

農山村に伝承される暮らしと伝統文化の景観を守る

本地域は、自然の宝庫であるだけでなく、伝統文化が大切に伝承されてきた場所でもあり、国指定無形民俗文化財の花祭りや三河田楽等が地域の人たちの手で守られています。また、四谷の千枚田や長江の棚田等、棚田百選にもあげられるような伝統的な農山村風景が残されている場所でもあります。

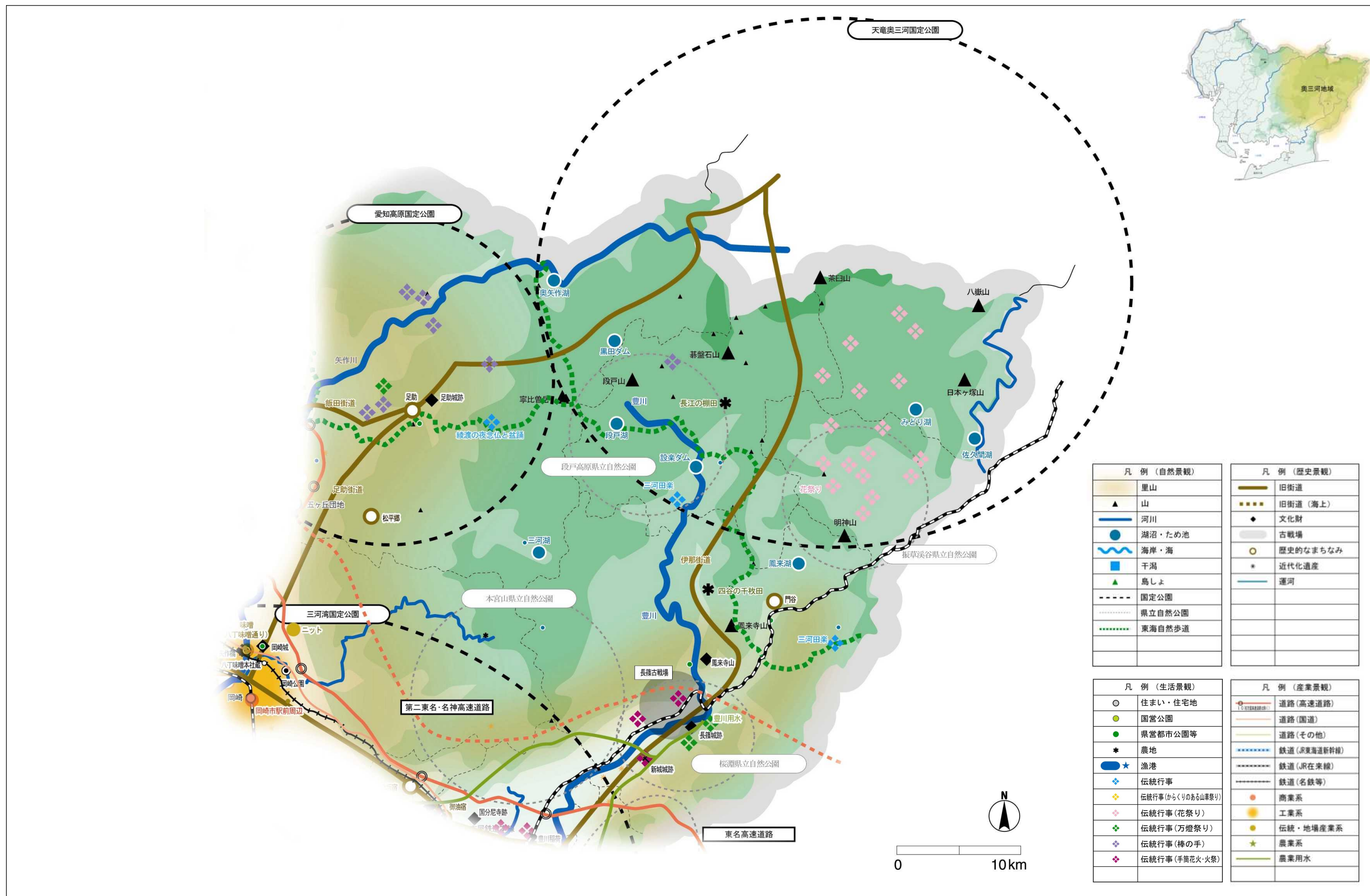
今後は、これらを貴重な景観資源として守り育てるとともに、現在注目されていないものに光を当てて、その魅力をあらためて見直し、景観資源として位置づけて保全していくなどの取り組みが望めます。

自然と調和した美しく住み続けたい生活景観を形成する

本地域は、河川や山並み等の自然が豊かで美しい地域です。その美しい自然を体感しようと各地から多くの人々が訪れているものの、一部の道路沿道には、集客施設用の華やかな屋外広告物が設けられたり、事業者による廃材の野積み等が見られたりするなど、周囲の美しい自然景観と調和していないものも散見されます。

今後は、来訪者を受け入れる視点とともに、住民が長く住み続けたいと思える美しい地域となることが望めます。そのため、周囲の山並みや河川等の自然景観との調和、住宅や農地等の生活景観との調和に配慮し、生活の場となる道路沿道等での屋外広告物の整序や花木の植栽、廃材の撤去、また適切な山の管理による美しい森林景観の形成等を進めていくことが望めます。

図 広域景観資源等の分布



(4)知多半島地域

地域の広域的な景観特性

【自然景観】

本地域は南北に細長い半島で、緩やかな起伏を有する丘陵が半島の背骨をなし、その土地の多くが田畑として利用されています。

尾張名古屋地域から連なる丘陵地の里山には、のどかな景観が見られます。

愛知用水が整備される以前に作られた農業用のため池が多数分布し、周囲の田畑や樹林と合わさって自然豊かな景観を形成しています。

地域南部には、内海海水浴場に代表される砂浜海岸があり、夏には大勢の観光客で賑わいを見せています。

半島東側には、日間賀島等の島しょを含む美しい三河湾の景観が広がっています。



【歴史景観】

本地域では古くから様々な産業が興り、その発展に併せてまちが形成されてきました。今では、常滑(窯業)や半田(醸造業)等が歴史的な趣のあるまちなみとして残り、その特徴的なまちなみを見学しようと、大勢の観光客で賑わいを見せています。

【生活景観】

半島東西の海沿いに開けた平地に、多くの住宅や工場等が集まる景観が見られます。豊浜漁港や師崎漁港、また日間賀漁港、篠島漁港等の半島先端や離島には、漁村に固有の特徴的な景観が見られます。

愛知の伝統行事の代表にもあげられる山車祭りの一つが半田にあります。精緻な彫刻や金糸・銀糸の刺繍(ししゅう)幕で覆われた総勢 31 台の豪華な山車が曳きまわされる風景は勇壮で、地域のハレの日の景観として大勢の観客を魅了しています。

【産業景観】

本地域は、中部国際空港(セントレア)により、中部地方の国際的な空の玄関口となっています。

常滑は明治時代から陶製土管等の陶器の大生産地として発展してきた歴史を持ち、まちなかに窯業用の煙突が立ち並ぶ魅力的な景観が見られ、大勢の観光客をひきつけています。

半田は醸造業の蔵が並ぶ歴史的な趣が魅力的な地域で、衣浦港を中心とした臨海工業地帯の中で特徴的な景観を有しています。

景観形成の方向性

本地域において進める景観形成には、次のことに留意して取り組むことが望めます。

知多半島の背骨をなす丘陵や里山の自然を保全する

本地域は、里山や丘陵地に見られる豊かな自然が半島の背骨を形成している地域です。その一方で、各都市と臨海工業地域や中部国際空港等とを結ぶ道路の整備や、商業施設の立地が進み、半島の豊かな自然景観との調和を図る必要のある地域でもあります。

今後は、里山や丘陵地及び海岸や多数あるため池等の水辺を保全するとともに、広域的な緑と水辺のネットワークを形成し、県民が豊かな自然に触れ、親しめる空間をつくること、また開発との調和を意識しながら多様な生物が共存できる環境の修復や創出を進めていくことが望めます。

愛知の玄関口にふさわしい景観を形成する

本地域は、中部国際空港の開港により、国内だけでなく世界にも開かれた中部地方の玄関口となりました。しかし、空港と名古屋を繋ぐ一般道路や知多半島道路の沿道、また鉄道沿線には派手な色彩を施した大規模な屋外広告物が多数見られるなど、来訪客を迎え、もてなすのにふさわしい景観になっているとは言えません。

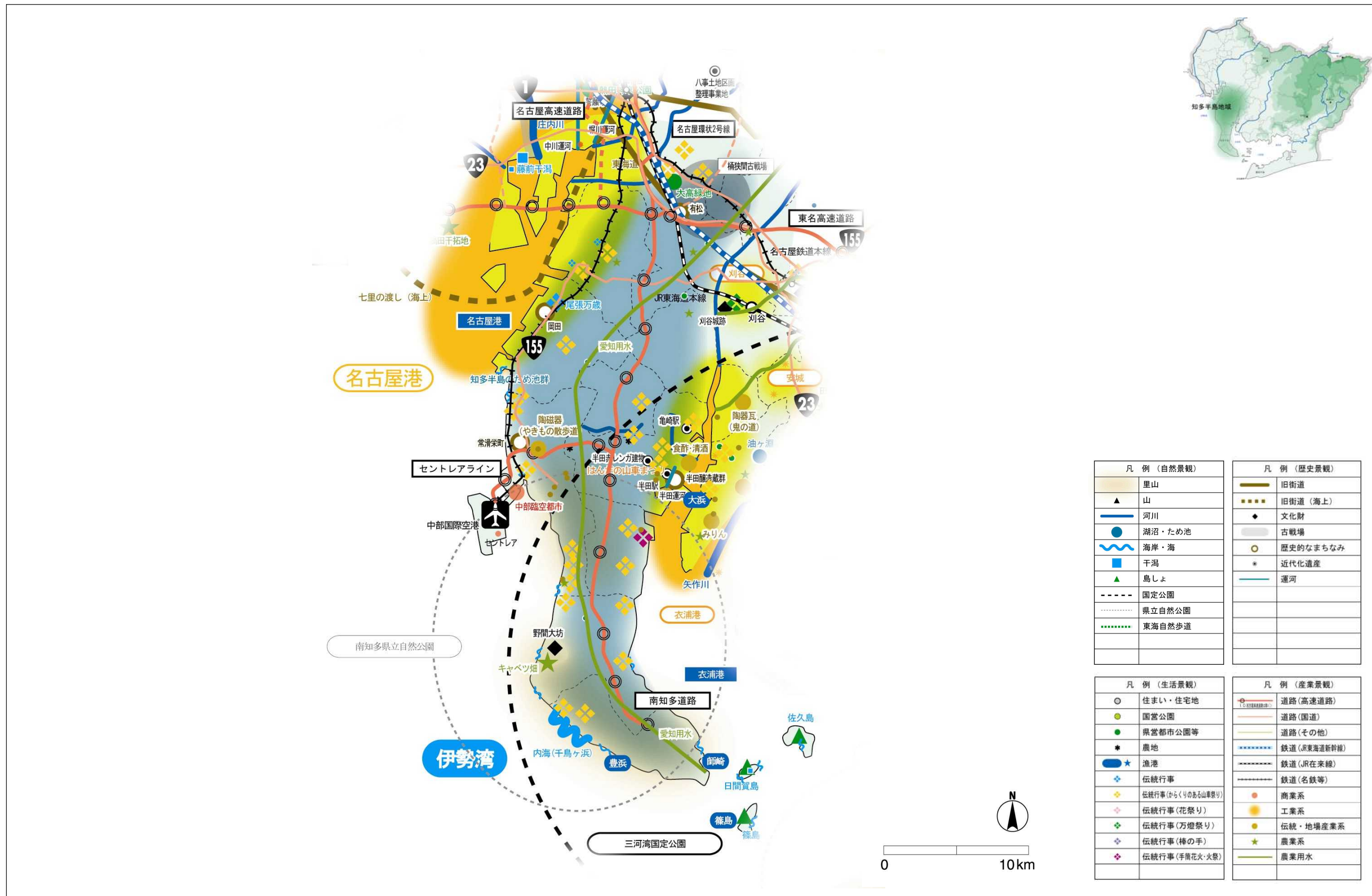
今後は、県民だけでなく、県外あるいは世界からの来訪客の立場にも立ち、本地域が愛知の新しい玄関口にふさわしい景観となるよう屋外広告物の整序を行います。また自動車や列車の車窓から見られることを意識して、沿道や沿線に建つ建築物や工作物等に対しては、質の高い景観となるよう配慮を促すことが望めます。

伝統的な地場産業が育んだ景観を守り活用する

本地域は、食酢、みりん、酒等の醸造業や陶磁器生産の窯業等、歴史性と高い技術力を有した地場産業が集まった地域です。こうした地場産業の中には、自社工場の見学を受け入れるなど既に産業観光としての取り組みを行い、大勢の観光客を集めて、地域の活性化にも貢献している企業があります。

今後は、地域に眠る伝統や技術に着目して地域固有の産業に光を当て、こうした資源を多数繋ぎ合わせる周遊ルートの整備を行うなど、地域が一体となった美しいまちづくりに取り組んでいくことが望めます。

図 広域景観資源等の分布



(5)東三河・渥美半島地域

地域の広域的な景観特性

【自然景観】

本地域は、東西方向に伸びる全長約 50km の渥美半島と、その付け根の三河港に面した豊橋平野からなっています。

渥美半島の太平洋側は、長大な砂浜、海食崖、海岸林により形成されており、多様な生物が生息するなど、貴重な自然景観が見られます。しかし砂浜の一部では侵食が進み、その対策が求められています。

渥美半島の内陸部では貴重な植物群落等、豊かな自然資源が存在します。

蒲郡を中心とした地域には、西三河地域や奥三河地域から伸びる標高 400m 前後の山地が連なり、美しい三河湾を望むことができる場所があります。



【歴史景観】

本地域には旧東海道が東西に通っています。当時の宿場町として残る二川宿、御油宿、赤坂宿には歴史的な趣の感じられる建築物や松並木が見られ、大勢の観光客の目を楽しませています。

【生活景観】

東三河ふるさと公園や豊橋総合動植物公園は、潤いと安らぎを与える空間として、多くの県民に親しまれています。

からくり人形を乗せた華麗な山車が、お囃子の音とともにまちなかを曳かれる様子は、地域の伝統的な風景として捉えることができます。

【産業景観】

東三河の中心都市である豊橋市が位置し、地域の経済、産業の主軸を担うまちなみが鉄道駅を中心に形成され、活力が感じられます。また、豊橋市内には愛知県で唯一の路面電車が通り、まちなみに彩りを添えています。

渥美半島は田畑や草地が多くを占めていますが、一部に電照菊や菜の花畑、キャベツ畑等の観光資源があるため、多くの来訪者で賑わっています。

三河港に面した地域では、大規模な埋め立てによる港や大型船舶の来航等によるダイナミックな景観が見られます。

大規模な橋梁が多数架けられている三河港は、産業の活力が感じられます。

海洋リゾート地や温泉街をはじめとした観光・レクリエーション施設が多数立地している蒲都市等では、大勢の観光客等による賑わいと活気のある景観が見られます。

景観形成の方向性

本地域において進める景観形成には、次のことに留意して取り組むことが望めます。

観光を支える雄大な自然景観と農業景観を保全する

本地域には、片浜十三里に代表される雄大な自然景観があります。またサーファーからの人気も高い太平洋ロングビーチがあるなど、マリンスポーツが盛んな地域です。さらに、浜の一部にはアカウミガメの産卵地もあり、希少な生物の生息環境として重要な地域でもあります。しかし、こうした自然も砂浜の減少や心無い観光客によるゴミの散乱等、景観上、問題がないわけではありません。

今後は、美しい海岸線に代表される自然景観を、地域の観光を支える貴重な自然資源として、また多様な生物が生息する環境として位置づけるとともに、自らが暮らし続けていく大切な生活環境であることを認識して、後世に地域の財産として伝え残していくことが望めます。

また本地域は、農業に関しても生産量等で愛知を代表しており、特にキャベツが、春、起伏のある農地一面を覆い尽くす様は、大変美しく感じられます。今後は、こうした農業に関わる雄大な景観も地域の財産として捉え、保全するとともに、観光資源としても位置づけて活かしていくことが望めます。

貿易港等のダイナミックな産業景観を引き立てる

本地域は、三河港を取り囲んだ臨海工業地域に見られるように、規模が大きくダイナミックな(力強い)産業景観を有しています。

今後は、こうした景観に対して、付近の橋梁上や蔵王山等の眺望の良い箇所から眺めた景観を意識し美しい三河湾と調和するよう、工作物や工場の外壁・屋根等は、色彩等に配慮して、本地域の産業景観の魅力を引き立てていくことが望めます。

往時を思い起こさせる街道景観を復興する

本地域には、旧東海道や海を渡る伊勢街道が位置し、この内、旧東海道では二川宿、御油宿、赤坂宿に、往時の宿場の面影が残っています。しかし、こうした資源は一部の地域に限るもので、宿場間を繋ぐ旧街道の連続性や物語性が失われつつあります。

今後は、現存する宿場等の歴史資源を大切に保全しつつ、旧街道やそれにまつわる埋もれた資源に光を当て、物語性の復活と広域的なネットワーク化を図ることで、本地域の持つ歴史を更に深みのあるものとして形成していくことが望めます。

図 広域景観資源等の分布

